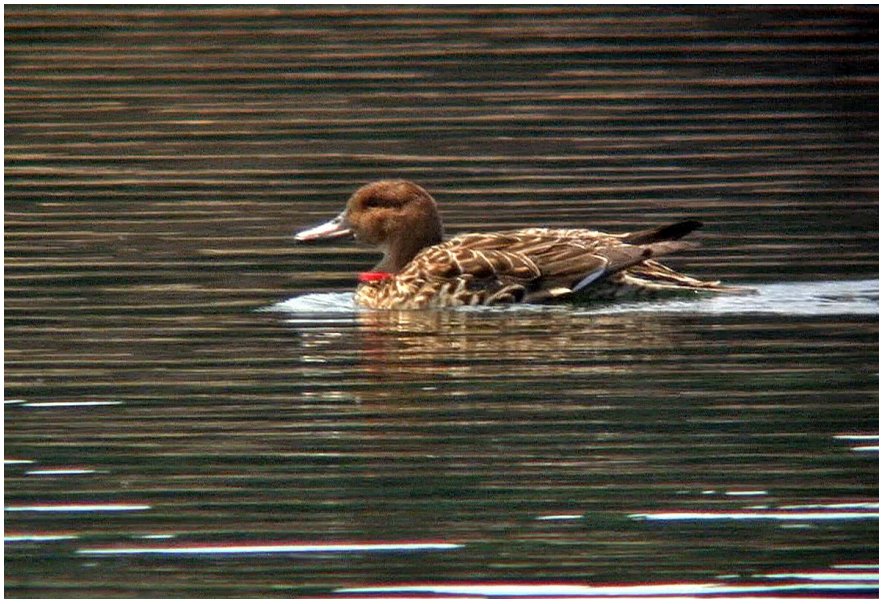
オナガガモ（カモ科）　全長　オス７５センチ　メス５３センチ

冬鳥のオナガガモは、全国に多数が飛来しています。

４月に入ると、ほとんどのカモは北の繁殖地に向い旅立ってしまいました。美郷町仏沢公園のため池には、まだ数十羽が残っていた。

群れの全体を眺めていたら、メスの中に変わった１羽が目に入った。倍率の高い望遠鏡に切り替えると、なんと首に赤いリングが絡まっているではないか。もしかして標識調査のために着けたのだろうかと思ったが、そんなことはあり得ません。

鳥類標識調査は、野生の鳥に個体識別のための足環などを装着して放鳥し、渡りの実態や様々な生態を明らかにする調査です。わが国では、環境省が山科鳥類研究所へ委託して実施しているものです。首輪や足環、カラーフラッグには番号や記号が付けられています。プラスチックのリングはこれらに該当せず、標識調査でないことは明らかです。



目立たないメスだが、首に輪が装着されていた。

そう言えば１０数年前、大浦沼で首にリングがついたカルガモを撮影したことを思い出しました。ペットボトルのキャップの一部分でないかと思われた。それでは何故こんなことになったのだろうか。誰かが野生のカモ類を捕まえ、首にはめ込むようなことは出来るでしょうか。殆どできないでしょう。

ホシハジロの横をスイスイと。

赤い首輪は窮屈そうではないようだ。

次に全くの推測となるが、カモが水中に潜り水面に浮かび上がった時に、偶然に人間が捨てたゴミの中に入ってしまった・・・・？

いろいろ詮索したが、なぜこうなったのか全く分かりませんと言うところでしょうか。いずれにしろゴミであることは確かでしょうから、人間のよからぬ行動が野生の生物を苦しめていると警鐘を鳴らし訴えていました。

2004 年２月、大浦沼のカルガモ。ペットボトルの一部と思われる。

かなり窮屈の様子。